

第72回企画展

昭和中期の畜力農機具

～水田耕起と代掻き作業～



平成29年4月8日(土)～平成29年6月30日(金)

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

昭和の中期までの農作業は、牛馬を使った農作業体系が主体で、畜力利用により田畑の耕起や水田の代掻き、運搬作業などの労働生産性を高め、家畜を飼うことで堆厩肥を生産、施して地力を維持していました。生まれた子馬は販売できる財産で、農家の生活にとって牛馬は欠かせないものであり、家族同様の扱いをしながら生活を共にしてきました。

岩手県では、昭和30年から31年にかけて稲作業実態調査をしており、当時の調査結果ではエンジンを使った耕起用農機具の普及率は3%程度でしたが、その後、エンジン動力の農機具が普及し、昭和35年ころには牛馬を使った農作業風景は消えて現在に至っています。

企画展では、牛馬を使った当時の作業方法を解説しながら、稲づくりの様子や、農機具、飼養用具、装具(馬具)等を紹介します。



代掻き



枕地の耕起

岩手県立農業ふれあい公園
農 業 科 学 博 物 館

北上市飯豊3-110 TEL:0197-68-3975

開館時間／9:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日／月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)

入館料／一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)あります

駐車場／大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台